

自主研究動向

公共交通と観光のあり方に関する研究(仮題)

～鳥取県の観光と交通に関するアンケート調査より(概要報告)～

研究員 中村理人

路線バスなど住民に身近な公共交通は、単に交通弱者や環境保全のためでなく、他地域からの来訪者にとっても必要なものである。しかしながら、県外からの観光客らにとっては、鳥取県の公共交通はあくまで生活交通が主眼に置かれているため、それらが便利であるとは必ずしも言い難い。そこで研究の一環として、観光客の旅行形態と公共交通機関の利用状況等を把握するため、鳥取県への旅行者に対するアンケート調査を実施した。

調査の実施概要は次のとおりである。

1. アンケート実施の概要

(1) 調査対象

鳥取県内の観光地へ立ち寄る旅行者(県外客、県内客を問わない)

(2) 実施期間

平成13年9月1日～24日

(3) 調査地点等

調査地点	区分	実施期間	調査方法
観光地 (3地点)	鳥取砂丘	各地点2日間の実施(主に土・日曜日、祝日)	聞き取り調査
	燕趙園		
	とっとり花回廊		
宿泊施設 (3施設)	鳥取温泉	各施設1週間の実施	調査票の配布と回収依頼
	三朝温泉		
	皆生温泉		
交通施設 (5施設)	鳥取空港	各地点1日の実施(主に土曜日)	調査票配布(郵送による回答依頼)と聞き取り調査
	米子空港		
	JR鳥取駅		
	JR倉吉駅		
	JR米子駅		

(4) 回収数

調査地点	区分	件数	(全体)%
観光地 (3地点)	鳥取砂丘	159	16.9
	燕趙園	77	8.2
	とっとり花回廊	194	20.6
宿泊施設 (3施設)	鳥取温泉	47	5.0
	三朝温泉	59	6.3
	皆生温泉	75	8.0
交通施設 (5施設)	鳥取空港	39	4.1
	米子空港	29	3.1
	JR鳥取駅	128	13.6
	JR倉吉駅	52	5.5
	JR米子駅	84	8.9
計		943	100

※交通施設の回収数332件のうち、聞き取り調査分は236件、配布による返信郵送分は96件(配布数1,100枚、回収率8.7%)。

※観光バスなど団体客の場合は、団体客1人を調査対象とした。

2. 回答者の属性

(1) 性別

性別	件数	(全体)%
男性	532	56.4
女性	411	43.6
計	943	100

(2) 年齢構成

年齢	件数	(全体)%
20歳未満	30	3.2
20歳代	193	20.5
30歳代	161	17.1
40歳代	160	17.0
50歳代	243	25.8
60歳代	124	13.1
70歳以上	32	3.4
計	943	100

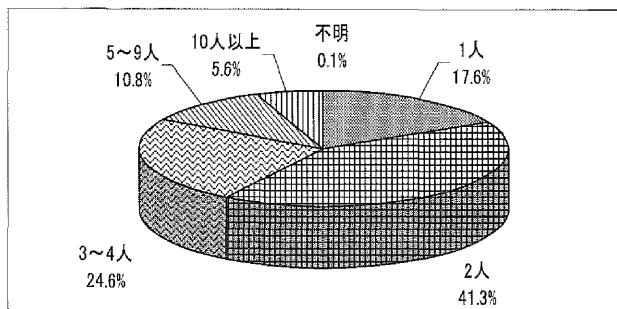
3. アンケート集計結果の概要

(1) 今回の鳥取県への旅行の内容について

問1 今回、あなたを含めて何人で旅行されましたか。

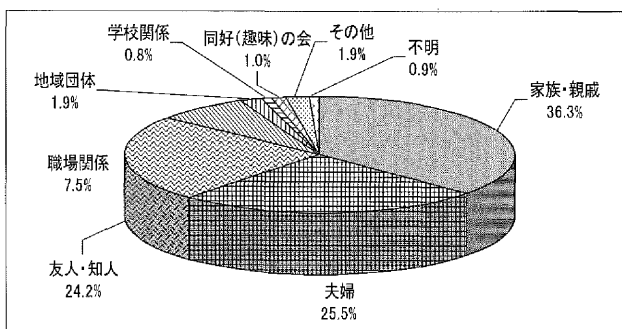
鳥取県への今回の旅行の人数は、「2人」(41.3%)、「3～4人」(24.6%)で全体の3分の2を占めており、それに続き「1人」の旅行が17.6%にのびている。

個人、小グループの旅行が全体の8割以上を占めている。



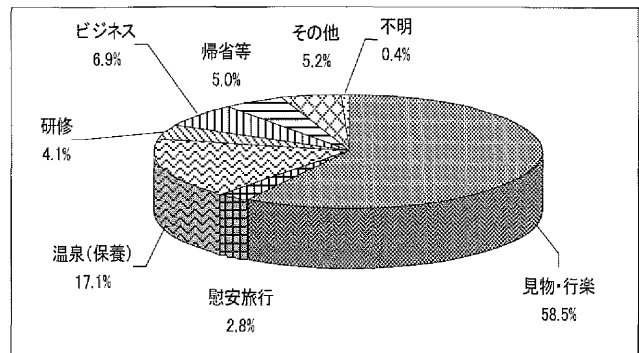
問2 前問で2人以上で旅行されたかたへお尋ねします。あなたのグループの構成は。

鳥取県への旅行の同伴者を見ると、「家族・親戚」(36.3%)、「夫婦のみ」(25.5%)で身内による旅行が6割強を占めている。続いて「友人・知人」(24.2%)が4分の1弱である。逆に「職場関係」は7.5%と1割にも満たなかった。



問3 今回の旅行の主な目的は。

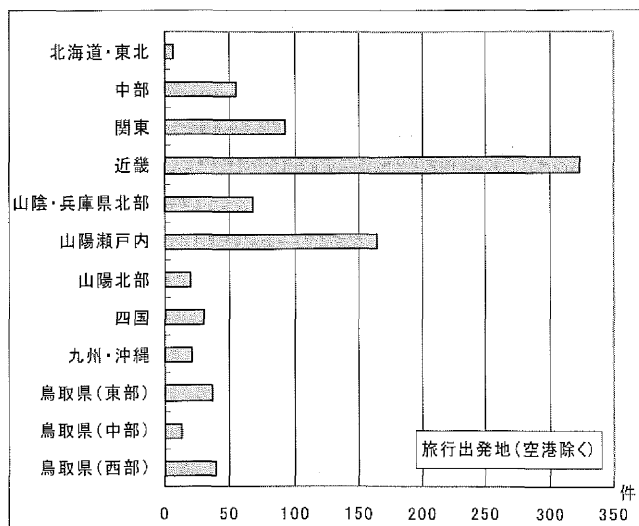
今回の鳥取県への旅行は、「見物・行楽」が58.5%と多く、続いて「温泉(保養)」の17.1%であった。「見物・行楽」の中には、調査時がちょうど9月の梨狩りシーズンにあたったため、「観光農園」、「梨狩り」と答えた人も多く目立った。



問4 旅行の出発地についてお尋ねします。どちらからお越しですか。

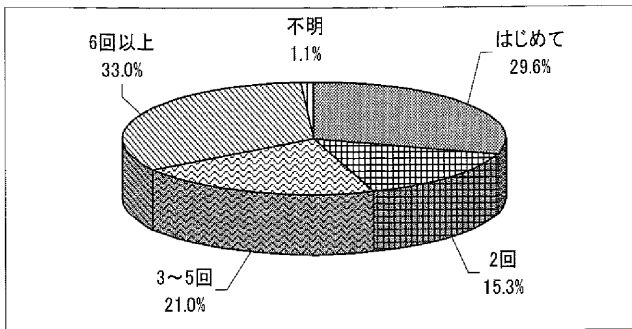
空港での調査では出発地が限定されたため、調査地から空港を除いたところで結果を見たところ、「近畿」、「山陽瀬戸内」方面からの旅行者が多かった。

なお、調査地が主に宿泊施設や県内主要観光地ということで、県内の観光客によるサンプルは少なかった。



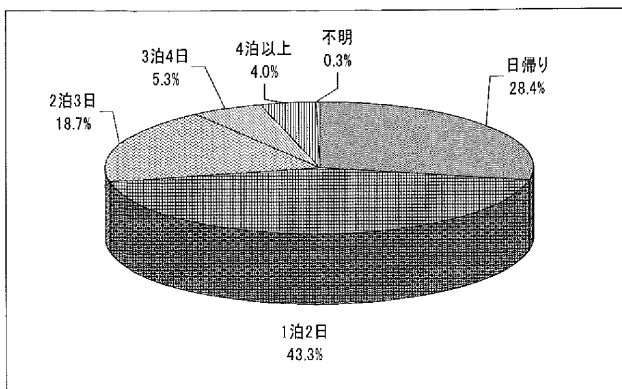
問5 県外からの旅行者にお尋ねします。鳥取県を訪れた回数は今回で何回になりますか。

今回の旅行者の鳥取県を訪れた回数は「6回以上」(33.0%)が最も多く、「3～5回」も21.0%であった。それらは特に近隣県からの訪問が中心であった。「はじめて」の旅行者は約3割であり、予想したよりもリピーター客が多いという結果が出た。

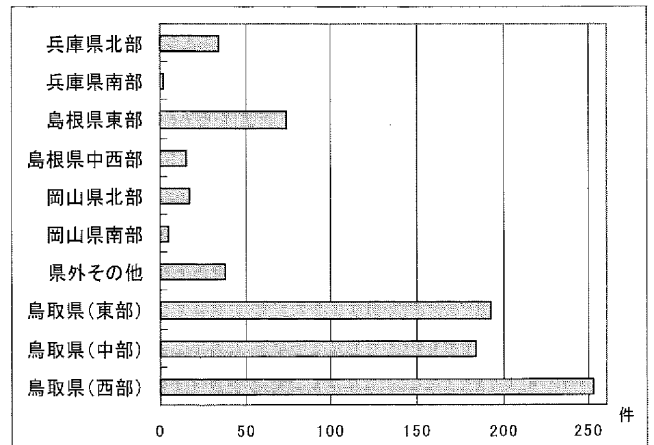


問6 今回の旅行の日程と宿泊地は。

4分の3弱の人が、「日帰り」または「1泊2日」の旅行であった。宿泊施設での調査を実施しているために予想より宿泊に伴う旅行が多かったが、観光地の調査ではやはり日帰りが中心であった。

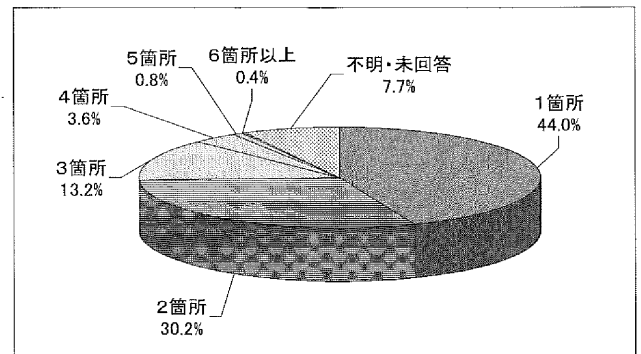


また、鳥取県内で宿泊した人は延べ4分の3以上にのぼったが、2泊以上の宿泊に対しては、近隣県をからめた宿泊も多くなり、最も多く隣県で宿泊した人は「島根県東部」であった。



問7 今回の旅行で、鳥取県内で立ち寄られた観光地は。

立ち寄り観光地を鳥取県東、中、西部ごとにいくつかのエリア(下表)にわけて旅行者の回遊数を見ると、「1箇所(エリア)」しか回遊しないが44.0%で最も多く、続いて「2箇所」(30.2%)。全体の約4分の3の旅行者が「1箇所」または「2箇所」であり、全体的に見て回遊性はあまり無く、同一エリアでゆったりと過ごす傾向が見られた。



エリア別

浦富海岸	東郷・燕趙園	とっとり花回廊
福部・鳥取砂丘	羽合周辺	大山周辺
市内・鳥取城跡	倉吉市内	米子市
白兔海岸	三朝周辺	境港市
国府町周辺	その他中部	皆生・淀江等
その他東部		その他西部

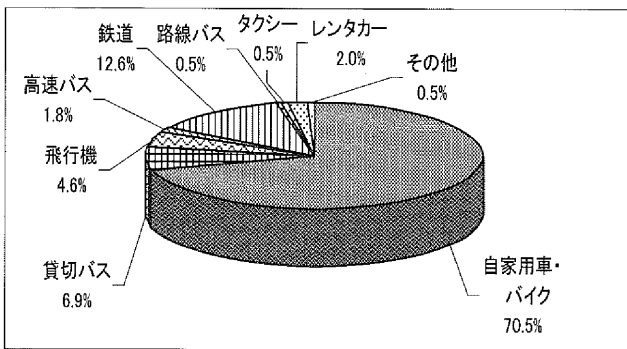
(2) 今回の旅行の交通手段と情報の利用について

問8 皆さんへお尋ねします。今回の旅行で利用された交通手段は。

①鳥取県へ入られたときの交通手段

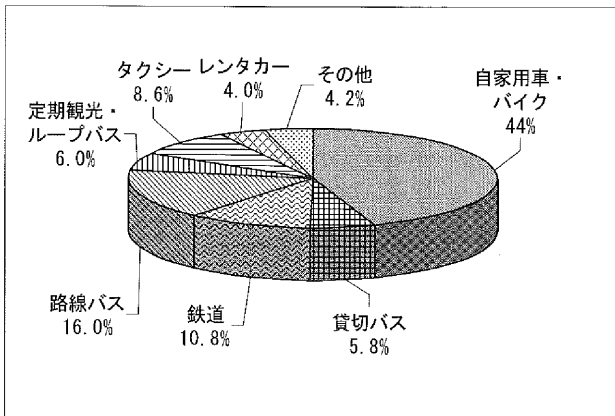
観光地と宿泊地だけの調査データでみると県外者が県内に訪れる交通手段は、「自家用車・バイク」(70.5%)が7割以上を占めている。

公共交通では「鉄道」(12.6%)、「飛行機」(4.6%)、「高速バス」(1.8%)である。



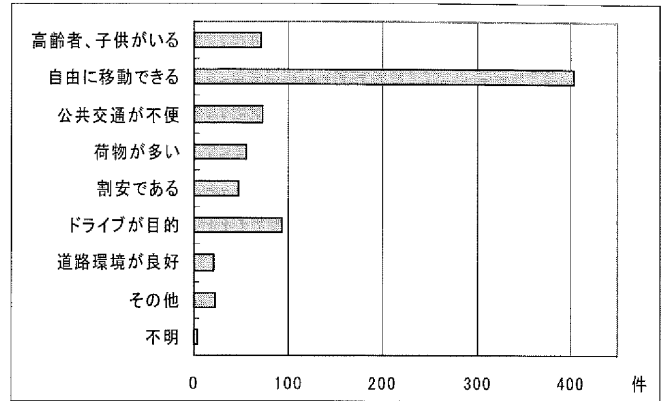
②県内移動や県内観光地に立ち寄られた際の交通手段(複数回答)

「自家用車・バイク」(44.0%)で、「路線バス」(16.0%)、「鉄道」(10.8%)と公共交通が続いている。



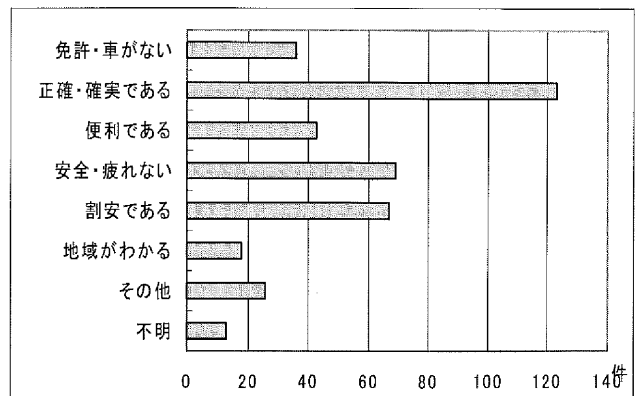
問9 問8-②で、自家用車を回答されたかたへお尋ねします。自家用車を利用される主な理由を2つまで選んでください。

自家用車を利用される人の理由は、「移動の自由」が1番である。「公共交通が不便」だからの理由も多かった。また家族旅行が多いことを反映して「高齢者、子供がいる」からも自家用車利用の理由にあげられる。



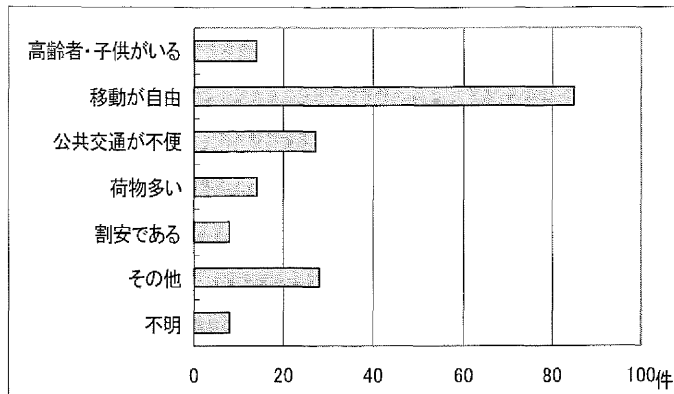
問10 問8-②で、鉄道、路線バス、定期観光バスを回答されたかたへお尋ねします。公共交通を利用される主な理由を2つまで選んでください。

移動に公共交通を選択される大きな理由は、目的地へ「正確・確実に移動する」である。また、自分で運転しない分「安全・安心(疲れない)」だからという理由も多い。「費用が安くつく」も上位にあげられているのは意外であった。

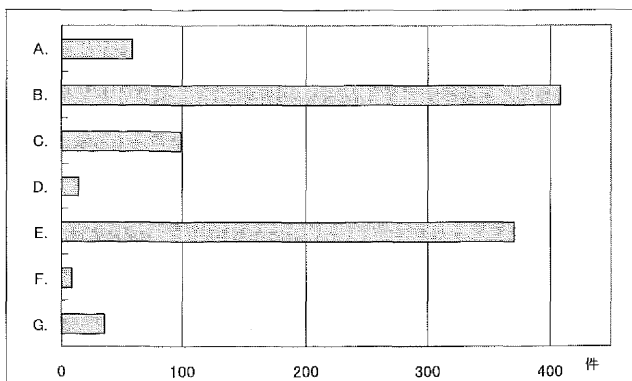


問11 問8-②でタクシー、レンタカーを回答されたかたへお尋ねします。それらを利用される主な理由を2つまで選んでください。

タクシー、レンタカー利用の理由も、自家用車利用と同じく「移動の自由」さである。また、「公共交通機関の不便」さをあげる人もかなりある。「その他」の中では、「目的地へ早く到着する」理由が多かった。



問12 皆さんへお尋ねします。今回の旅行で利用された交通手段について、旅行出発前または鳥取県内へ到着後に調べたり、情報を得ようとされましたか。



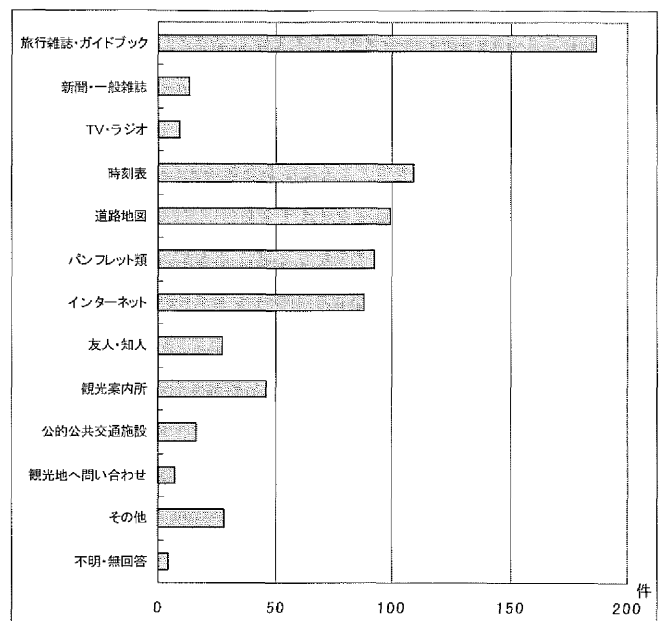
A.	貸切バスによる旅行等のため、調べる必要がなかった
B.	旅行出発前に調べた
C.	県内到着後に調べた
D.	何を調べてよいかわからなかった
E.	調べなかった
F.	その他
G.	不明・無回答

鳥取県への旅行の交通手段については、何らかの方法で出発前に情報を得ているものの、多くが県内に到着するまでの情報であり、質問の不足により県内到着後の移動の情報についてまで調べているのかはわからない。

問13 問12で「B」または「C」を回答されたかたへお尋ねします。今回の旅行の交通手段について、調べられた媒体（情報源）は、どのようなものでしたか。（複数回答）

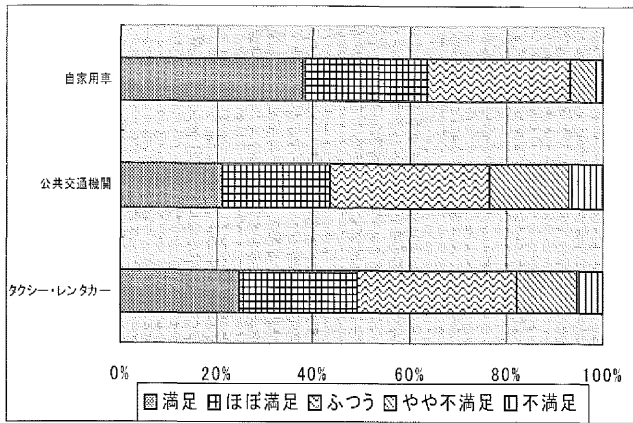
旅行交通手段についての情報源は、自家用車、公共交通機関など利用交通によって違いがあるものの、「旅行雑誌、ガイドブック」が非常に多かった。また特徴的なのは、IT化時代を反映して旅行出発前にインターネットを活用している人も多いことであった。

県内に到着してからの情報としては、「公的観光案内所」や「パンフレット類」が主である。



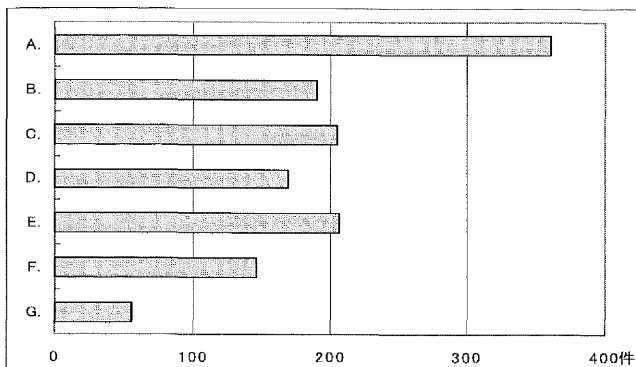
問14 皆さんへお尋ねします。今回の旅行で利用された交通手段について、満足度をお答えください。

全体では半数以上が「満足」、「ほぼ満足」であるが、「公共交通機関（鉄道、路線バス、定期観光バス）」の利用の人に限れば「不満足」「やや不満足」が他と比べて多かった。その理由としては、やはり「本（便）数が少ない」、「他の交通機関との接続が悪い」が多く目立った。



問15 皆さんへお尋ねします。県内の移動、ならびに県内観光地に立ち寄られた際に利用される公共交通（路線バス、JRなど）について、今後必要と思われるものを2つまで選んでください。

多かったのは「公共交通の利便性の向上」であった。「インターネット等による最新の情報発信」など最新の事前情報の重要性を選択する人も多かった。また、最近全国的に増えてきている「循環バス」についても望む人が多かった。



A.	公共交通の利便性の向上（便数の増、他の交通機関との接続など）
B.	観光案内所、バスステーション等での公共案内の充実
C.	インターネット等による最新の情報発信
D.	観光地のパンフレット等による公共交通の案内
E.	観光地と観光地を結ぶ（循環バス）
F.	その他
G.	不明・無回答

4. まとめ（調査の結果）

鳥取県への旅行者の形態を見ると、最近の国内観光の動向にも言えるように個人、小グループによる旅行が大半を占めている。特に夫婦や家族、友人・知人との同伴による旅行が多く、団体のバス旅行的なものは少ない。

県外からの出発地は、近畿や山陽瀬戸内側からの訪問客が多く、また近隣県からのリピーター客が多いようである。

県内の回遊性については、ほとんどが1箇所（エリア）または2箇所（エリア）であり、全体的に見て回遊性はあまり無く、同一エリアでゆったりと過ごす傾向が見られた。

旅行の周遊性は、鳥取県への旅行者は日帰り1泊が全体の7割以上を占め、それらはほぼ県内のみでの滞在である。2泊以上の宿泊者は近隣県、特に島根県東部等をからめた宿泊が多くなり広域的な移動となる。

旅行の交通手段については、県外からの利用交通機関はマイカーが中心である。移動の自由度に加え、家族旅行が多いことも反映しているようである。到着後の移動としては「路線バス」「鉄道」「定期観光バス」が、「自家用車」について多く利用されている。

旅行交通手段の情報としては、主なものは旅行雑誌やガイドブック。また旅行出発前にインターネットによる情報を利用している人が多い。今後、公共交通を利用した旅行の可能性についても、上位にインターネット等による最新の情報発信の必要性をあげている。

鳥取県内で利用した交通手段についての満足度は、ほぼ満足をあげている旅行者が多いようだが、公共交通機関の利用に関してはやはり「本（便）数が少ない」、「他の交通機関との接続が悪い」など交通の利便性に対する不満が多く目立った。

今後のアンケート調査の分析は、項目ごとのクロス集計などの統計手法により、より深く傾向を探るとともに、回答者から寄せられたご意見を検討していくこととしている。